

## 体育を教える教員の資質能力に関する KJ 法を用いた質的研究

A qualitative research using KJ method on the professional competencies of physical education teachers

兄 井 彰

Akira ANII

保健体育ユニット

(令和2年9月28日受付, 令和2年12月10日受理)

### Abstract

The purpose of this study is to clarify the professional competencies of physical education teachers from the prior literature on the qualities of teachers who teach physical education, and classifying and integrating them using the KJ method. As a result, the professional competencies of physical education teachers is as follows: "Instruction" "Management" "Correspondence to children" "Professional knowledge" "Personality" "Educational philosophy" "Sociality" "Self-improvement".

Key words: competencies, KJ method, physical education teachers

### I. はじめに

体育を教える教員に求められる資質能力について、数多くの研究や論説が行われている。例えば、武隈（1992）は、体育に関する職能の内容について、情熱や人間性といった人格的側面と確かな教育・体育観や理念を基底として、児童・生徒を理解する能力、体育の指導能力、体育の経営能力、学校や教育・体育をとりまく諸条件の認識能力で構成されることを示している（品田，2008）。また、木原ら（2005）は、体育を教える教員に求められる資質能力について、戦後の日本における保健体育教師に求められてきた専門的力量に関する多くの文献や研究を概観し、体育授業における①知識、②パフォーマンス、③態度、④部活動、⑤生徒指導、⑥パーソナリティーに整理し分類している（兄井・本多，2013）。さらに、松田（2010）は、中学校の保健体育教師に必要な能力について、直接教員に調査を行い、「人間関係力」「運動指導力」「情報活用力」「生徒管理力」が職能として意識されており、「体育授業の指導

以上に生徒指導や部活指導、学校の運営・管理等への期待を強く感じている」ことを明らかにしている。このように、体育を教える教員に求められる資質能力については、数多くの事柄が明らかになっている。

この体育を教える教員に求められる資質能力については、資質能力といった用語だけでなく、職能や専門的力量、実践的力量といった多様な用語で表現されている（木原ら，2005）。例えば、兄井・本多（2013）は、生まれつきの性質や才能を意味する「資質」や物事をなし得る力とされる「能力」ではなく、学習によって習得が可能であることを含意する「職能」という用語で、優秀な教師が持っている職能について明らかにしている。また、野津・後藤（2011）は、「教材素材を見抜く力」と「子どもを見抜く力」に着目して、よい体育授業を行うための教師の力量を構造化している。このように体育を教える教員に求められる資質能力は、職能や力量といった用語で数多く検討させてきている。本研究では、中央教育審議

会教員の資質能力向上特別部会（2012）の審議で用いられている資質能力で言葉を用いることとする。

このような体育を教える教員に求められる資質能力に関する研究は、研究方法によって、理念的研究と実証的研究に区分される（木原ら，2005）。理念的研究とは、教師や研究者の体験や経験に基づいていたり、諸外国の文献資料をその根拠としていたり、保健体育教師はこうあるべきと理念的に資質能力を記述した研究である。また、実証的研究とは、質問紙調査や授業観察などある程度客観的な資料に基づいて資質能力を記述した研究である。これまでに、行われた体育を教える教員に求められる資質能力に関する研究は、この2つの研究に大別できる。

以上のように、体育を教える教員に求められる資質能力は、さまざまな用語や方法で検討され、多くの知見が明らかになっている。そのため、各研究で個別の資質能力の内容が示されていたり、個々の教育実践に基づいて資質能力の構造化が試みられていたり、一般的で共通した資質能力については、検討されていないと考えられる（木原ら，2005）。

そこで、本研究では、これまでに刊行された研究や文献に示されている体育を教える教員に求められる資質能力について、その事象を出来る限り多く収集し、質的研究法のKJ法により、整理・分類を行い、体育を教える教員が身に付けるべき一般的で共通した資質能力を明らかにすることを目的とする。

## Ⅱ. 方法

### 1. 研究方法

本研究では、体育を教える教員に求められる資質能力について、1979年から2019年までに日本で刊行された研究や文献から事象を数多く収集し、分類・整理するために、質的研究法の1つであるKJ法を採用した。

### 2. 事象を収集した調査対象

学術用途での検索を対象として論文、学術誌、出版物をウェブ検索できるサイトを用いて、1979年から2020年までに日本で刊行された体育を教える教員に求められる資質能力に関する研究や文献を収集した。「体育」「教員」「資質」「能力」「力量」「職能」などをキーワードとして、検索を行った。それに加え、体育を教える教員に求められる資質能力に関する出版物についても出来る限

り収集した。その結果、63の研究や文献から事象を収集した。

### 3. 分析

本研究では、体育を教える教員に求められる資質能力について過去に研究、提案されてきたものを文献から抽出するという方法を選択した。その後、KJ法（川喜田，1967；1970）を用いて分析した。このKJ法の特徴は、以下のようにまとめられている（和ら，2011）。①データ収集と分析を別々に行う、②分類と集約を通して、分析前に気づかなかったことを創造的に作り出す、③単なるデータの分類ではなく、分類と結合によって全く新しい意味のまとまりを見出していく、④語りの背後にある構造を読み取ることができる、⑤経験や思いをある程度まで一般化できる、⑥カテゴリー化して見出しをつけることによって、要約、抽象化することができる。また、KJ法は、一見まとめようもない複雑多数な情報やデータを個人の思考だけでなく、複数人によって類似性や共通性のある物事にカテゴリー化し、それを繰り返すことで新たな意味や構造を理解する方法である（川喜田，1967）。本研究では、数多く収集された体育を教える教員に求められる資質能力に対して、その類似性や共通性をもとにカテゴリー化を行い、分類を試みるため、以上のような特徴を持つKJ法を採用した。

まず、KJ法を始めるにあたり、過去の研究や文献から体育を教える教員に求められる資質能力を抽出し、そのエッセンスを1項目について1枚のカードに書き、分析の対象とした。その後、KJ法の基本的ステップ（ラベル作成・グループ編成・A型図解・B型文章化）を行った。その際、基本的ステップを2度以上重ね、B型文章化を口頭等で省略する省略型累積KJ法（川喜田，1970）を適用した。上記の省略型累積KJ法により専門領域が体育科教育である大学教員と大学院生4名で分析を行った。

## Ⅲ. 結果

1979年から2019年までに出版された63の体育を教える教員に求められる資質能力に関する研究や文献から、942項目の記載内容を収集した。この項目についてKJ法を用いて分類し、カテゴリー化を行った。その結果が表1である。この表の通り、体育を教える教員に求められる資質能力は、8つのカテゴリー（35のサブカテゴリー）に分類することができた。

表 1. 体育を教える教員に求められる資質能力の分類と収集項目数

カテゴリーとサブカテゴリー	項目数	カテゴリーとサブカテゴリー	項目数
<b>1 体育の指導能力</b>	260	<b>5 人間的側面</b>	201
1 学習指導に関する能力	64	1 人間的魅力	139
2 運動指導力	62	2 健康的	30
3 運動実践力	39	3 豊かな教養	23
4 教材研究をする力	30	4 責任感	9
5 授業方法の開発力	30		
6 授業計画立案能力	27	<b>6 教育的信念</b>	59
7 年間計画立案能力	8	1 教職に対する強い情熱	24
		2 プロ意識	14
<b>2 マネジメント能力</b>	123	3 一貫した教育的姿勢	13
1 集団の統率力	37	4 教育的愛情	8
2 生徒管理能力	23		
3 評価する力	22	<b>7 社会性</b>	49
4 危機管理能力	19	1 パブリックとのコミュニケーション能力	21
5 部活動の運営能力	10	2 人間関係形成能力	11
6 体育的行事の企画運営能力	6	3 社会に対する理解	17
7 情報活用能力	6		7
<b>3 子どもへの対応</b>	89	<b>8 自己研鑽力</b>	75
1 子ども理解力	52	1 研究意欲	44
2 子どもに対する教育的愛情	17	2 省察力	31
3 子どもの動機づけを高める力	13		
4 子どもに配慮できる力	7		
<b>4 専門的な知識</b>	86		
1 教育内容についての知識	56		
2 教授方法についての知識	23		
3 学習指導要領に関する知識	5		
4 体育的行事に関する知識	2		
			<b>計 942</b>

## 1. 体育の指導能力

このカテゴリーは、体育授業を行う上で、直接必要となる体育に関する指導能力に関する7つのサブカテゴリーで構成されている。

「学習指導に関する能力」とは、子どものつまずきに気づき適切に指導できる力（北澤・鈴木, 2013）や授業を展開する力（中井・澤田, 2007）など、子どもの運動意欲や学習意欲を引き出すために必要な教員の能力が数多く含まれているサブカテゴリーである。「運動指導力」は、運動種目に必要な技能を指導できる力（岩田ら, 2012；植

屋, 2005）など、さまざまな運動種目に関する技能を子どもに習得させるためにどのような指導法で教えると効果的であるかといった直接運動の指導（西原, 2006）に関わる能力についてのサブカテゴリーである。「運動実践力」とは、授業で教師が示範できる力（岩田ら, 2005）など、教員自身がどの程度運動が実践できるかあるいは実践できていたかといった教員の運動能力についてのサブカテゴリーである。「教材研究をする力」とは、子どもに合わせた教材づくりができる力（加登本ら, 2011）など、子どもの運動意欲を引き出し、



運動が上手くなるためにはどのような教材が有効であるかを考え、調べることができる能力についてのサブカテゴリーである。「授業方法の開発力」とは、ITCの活用（石塚・鈴木，2013）やグループワークの実施（岩田ら，2005）などに関する授業方法の工夫に関する能力についてのサブカテゴリーである。「授業計画立案能力」とは、授業を計画的に進める能力（岩田，2015）など、学習指導案の作成も含め、どのように体育授業を進めていけば効果的であるかといった体育授業の計画に関する能力についてのサブカテゴリーである。「年間計画立案能力」とは、体育授業について、年間を見通して計画できる能力（明石ら，2015）についてのサブカテゴリーである。

## 2. マネジメント能力

このカテゴリーは、体育授業に加え、部活動や体育的行事に対する運営管理を含む7つのサブカテゴリーから構成されている。

「集団の統率力」とは、学習規律の確立（中井・澤田，2007；須甲・助友，2017）や学習雰囲気醸成（池川ら，2011；高橋ら，2004）、学級経営（浅見ら，2013）も含めて学習集団のまとめ方に関する能力についてのサブカテゴリーである。「生徒管理能力」とは、生徒指導（松田，2010）も含めて、子どもの実態を踏まえて（久保ら，2011）教師がコントロールできる能力についてのサブカテゴリーである。「評価する力」とは、授業評価だけでなく子どもの活動を認めて正しく評価できる（嘉数ら，2015）など学習評価に関する能力についてのサブカテゴリーである。「危機管理能力」とは、体育施設の管理（嘉数・岩田，2013；嘉数ら，2015）も含めて子どもが安全に効果的に学習を進められるような環境づくりと指導に関する能力についてのサブカテゴリーである。「部活動の運営能力」とは、専門的な知識や技能を生かして運動部活動の指導ができ（石村・山西，2007）かつ運営ができる（永里，2014）能力についてのサブカテゴリーである。「体育的行事の企画運営能力」とは、運動会や体育祭などの企画や運営に関わる能力（渡邊，2010）についてのサブカテゴリーである。「情報活用能力」とは、外部指導者やITの活用など情報を上手く活用できる能力（木原，2011；松田，2010）についてのサブカテゴリーである。

## 3. 子どもへの対応

このカテゴリーは、教員が直接子どもに関わる

際の対応に関する4つのサブカテゴリーで構成されている。

「子ども理解力」とは、子どもの個性を知り（岩田ら，2005）、子どもの運動のつまずきに気づく（嘉数・岩田，2013；木原ら，2015）など子どもを見抜く力（嘉数ら，2015）に関する能力についてのサブカテゴリーである。「子どもに対する教育的愛情」とは、子どもが好きであること（植屋ら，2008）や結びつき強い（岩田ら，2005）など子どもに対する愛情にあふれた資質についてのサブカテゴリーである。「子どもの動機づけを高める力」とは、子どもにやる気を出させる接し方や支援（藤田・佐藤，2010；加登本ら，2012；中井・澤田，2007）に関する能力についてのサブカテゴリーである。「子どもに配慮できる力」とは、子どものニーズに合わせる（嘉数ら，2015；加登本ら，2012）や運動の苦手な子どもに対する配慮（岩田，2012）など子ども一人一人に配慮できる（中井，2010）能力についてのサブカテゴリーである。

## 4. 専門的な知識

このカテゴリーは、学習内容や教授方法、学習指導要領、体育的行事に関するそれぞれの専門的な知識についての4つのサブカテゴリーから構成されている。

「教育内容についての知識」とは、体育だけでなくスポーツ一般の知識（渡邊，2010）や健康や体力などの保健に関する知識（兄井・本多，2013；嘉戸，1991）、運動技能に関する専門的な知識（武隈，1992；山口ら，2010）についてのサブカテゴリーである。「教授方法についての知識」とは、スモールステップの活用方法（村井ら，2011）や体育授業の進め方（松田，2010）など運動の教え方に関する専門的な知識（山口，2010；四方田ら，2013）についてのサブカテゴリーである。「学習指導要領に関する知識」とは、それぞれの校種における学習指導要領の理解や生涯スポーツなどの学習指導要領の理念に関する知識についてのサブカテゴリーである。「体育的行事に関する知識」とは、体育大会などの運営に関わる専門的な知識についてのサブカテゴリーである。

## 5. 人間的側面

このカテゴリーは、教員のパーソナリティーを含む教員の人柄に関する4つのサブカテゴリーで構成されている。

「人間的魅力」とは、リーダーシップがある

(鈴木ら, 2012), 明朗快活でユーモアがある(中井ら, 1996; 村瀬・生方, 2010), 賞賛や励ましの態度(高橋ら, 1989)など教員自体の魅力に関する資質についてのサブカテゴリーである。「健康的」とは, 若々しくて体力があり, 活発に活動している教員の様子についてのサブカテゴリーである。「豊かな教養」とは, 運動やスポーツだけでなく, さまざまな事柄について知っているといった教養が豊かな資質についてのサブカテゴリーである。「責任感」とは, 意志が強く責任感や使命感があるといった教員の資質についてのサブカテゴリーである。

## 6. 教育的信念

このカテゴリーは, 教員としての教育の考え方や姿勢と行った信念(朝倉・清水, 2010; 2014)に関する4つのサブカテゴリーで構成されている。

「教職に対する強い情熱」とは, 教師としての価値観(佐藤ら, 2013)として, 教えることに喜びや教員としての魅力を感じ(植屋ら, 2008; 植屋ら, 2010), 教職にやりがいを感じる資質についてのサブカテゴリーである。「プロ意識」とは, 自分が目指す体育授業を実践するや熱心な指導など, 体育指導の専門家であるという自負(四方田ら, 2013)についてのサブカテゴリーである。「一貫した教育的姿勢」とは, 教員自身の考え方が一貫しており, えこひいきをしないなど, 毅然とした姿勢で教育に携わる資質についてのサブカテゴリーである。「教育的愛情」とは, 子ども一人一人に対して愛情豊かに接する資質についてのサブカテゴリーである。

## 7. 社会性

このカテゴリーは, 対人関係や学校組織を良好に保つためのコミュニケーション能力を含む教員の社会性に関する3つのサブカテゴリーから構成されている。

「パブリックとのコミュニケーション能力」とは, 学校内だけでなく, 保護者や地域社会(日野, 2006; 坂本ら, 2011)との関係を良好に保つコミュニケーション能力(武隈, 1992)に関するサブカテゴリーである。「人間関係形成能力」とは, 子どもだけでなく, 同僚や仲間などと良好な関係を保つために必要な一般的な人間関係に関する能力についてのサブカテゴリーである。「社会に対する理解」とは, 社会の変化に対応できる, ボランティア精神など教員の社会性についてのサ

ブカテゴリーである。

## 8. 自己研鑽力

このカテゴリーは, 体育授業の質を高めるために必要な研究と教育実践を振り返ることを含む2つのサブカテゴリーから構成されている。

「研究意欲」とは, 公開授業の実施(木原ら, 2014)や研修会に積極的に参加する(住本・岡出, 2015; 四方田ら, 2013), 意欲的学習(高橋ら, 1996)など, 教員が授業実践を高めるために必要な研究に関わる態度(園山, 1999)などが含まれるサブカテゴリーである。「省察力」とは, 自身の教師行動やそれに対する子どもの学習活動など授業実践のさまざまな事柄について振り返ること(森ら, 2009; 北澤・鈴木, 2013; 久保ら, 2008; 鈴木, 2010; 梅野ら, 2010; 山口, 2011)ができる能力についてのサブカテゴリーである。

## IV. 考察

本研究は, これまでに刊行された研究や文献に示されている体育を教える教員に求められる資質能力について, その事象を出来る限り収集し, 質的研究法の KJ 法により, 整理しカテゴリー化を行い, 体育を教える教員が求められる資質能力を明らかにすることが目的であった。その結果, 体育を教える教員に求められる資質能力は, 「体育の指導力」「マネジメント能力」「子どもへの対応」「専門的な知識」「人間的側面」「教育的信念」「社会性」「自己研鑽力」の8つのカテゴリーに分類できた。

また, それぞれのカテゴリーの下に計35のサブカテゴリーがあり, それぞれを見ると, 保健体育教師の専門的力量に関して行われた研究の動向を整理した研究(木原ら, 2005)や保健体育教師の職能意識を調査した研究とよく似た資質能力が確認できる。例えば, 木原ら(2005)は, 「知識」「(体育授業の)パフォーマンス」「態度」「部活動」「生徒指導」「パーソナリティー」といったカテゴリーを競ってしているが, 本研究でも, 「専門的な知識」「運動指導力」「部活動の運営能力」「子どもへの対応」「人間的側面」とある程度対応が可能なカテゴリーやサブカテゴリーが見られる。さらに, 調査研究で明らかにされた保健体育教師の職能は, 「授業構想力」「人間関係力」「運動指導力」「情報活用力」「生徒管理力」とされているが(松田, 2010), 本研究でも, よく似たカテゴリーやサブカテゴリーが見られる。このことから, 本研究において明らかにできた体育を教え

る教員に求められる資質能力は、ある程度、一般的で妥当であると考えられる。

加えて、本研究において収集できた項目数が多いサブカテゴリーは、「人間的魅力」「学習指導に関する能力」「運動実践力」「教育内容についての知識」であった。このことから、これまでに刊行された研究や文献においては、人間的に魅力的で、運動が上手く、よい体育授業の実践力があり、さまざまな知識が豊富な教員が資質能力を備えていることを示唆している。

以上のように、本研究では体育を教える教員に求められる資質能力について、8つのカテゴリーと35のサブカテゴリーに分類できた。しかし、各カテゴリー同士がどのような関係であるかを示す資質能力の構造については、今回は明らかにできなかった。資質能力（職能）についての構造化は、後藤・野津（2012）や松田（2010）、野津・後藤（2010）、武隈（1992）が行っており、ある程度方向性が示されている。今後は、これらの研究を参考にして、今回得られた結果を構造化した上で質問紙を作成して、実際に体育を教える教員に調査するなど、客観的なデータに基づいて体育を教える教員の資質能力を明らかにする必要があると考えられる。

### 参考文献

- 明石愛・辻延浩・加登本（2016）小学校女性教師の職能発達に関する体育実践の力量形成過程についての質的研究．滋賀大学大学院教育学研究科，教育実践研究，1，53-70.
- 兄井彰・本多壮太郎（2013）中学校体育におけるエキスパート・ティーチャーの職能構造に関する定性的研究（1）．福岡教育大学紀要，62（5），75-84.
- 朝倉雅史・清水紀宏（2010）体育教師の信念に関するエスノグラフィー研究．体育・スポーツ経営学研究，24，25-46.
- 朝倉雅史・清水紀宏（2014）体育教師の信念が経験と成長に及ぼす影響：「教師イメージ」と「仕事の信念」の構造と機能．体育学研究，59（1），29-51.
- 浅見裕・清水将・栗林徹・鎌田安久・澤村省逸・上濱龍也（2013）体育科教育における教師教育研究の動向と成果を踏まえた教職実践演習の試み．岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，12，131-139.
- 中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会（2012）教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（審議のまとめ）．中央教育審議会，1-24.
- 藤田勉・佐藤善人（2010）小学生と中学生の体育授業における動機づけの比較検討．鹿児島大学教育学部研究紀要，61，43-59.
- 後藤幸弘・野津一浩（2012）保健体育授業の構造と機能について．後藤幸弘・上原禎弘編，内容学と架橋する保健体育科教育論，晃洋書房，2，8-12.
- 日野克博（2006）変わる教師養成教育のいま－愛媛大学を例にして－．体育科教育，54（3），14-17.
- 池川佳志・井谷恵子・岩脇あゆみ（2011）小学校体育授業における熟練教師の思考に関する事例研究：授業の「基礎的条件」場面を中心に．教育実践研究紀要，11，87-95.
- 石塚諭・鈴木直樹（2013）体育教師の指導行動に関する研究動向．東京学芸大学紀要，芸術・スポーツ科学系，65，147-159.
- 石村雅雄・山西哲也（2007）体育科教員の役割意識について．鳴門教育大学研究紀要，2，51-60.
- 糸岡夕里（2010）体育授業で求められる教師の能力．高橋健夫他編，新版体育科教育法入門，大修館書店，pp. 251-256.
- 岩田昌太郎（2015）教員養成のスタンダードづくり．岡出美則他編著，新版体育科教育学の現在，創文企画，pp. 197-204.
- 岩田昌太郎・加登本仁・松田泰定（2012）保健体育科教員の悩み事に関する調査研究．学校教育実践学研究，18，151-158.
- 岩田昌太郎・菅尾尚代・松岡重信（2005）体育科教員における「資質能力」の質的向上・保証について－養成段階に到達すべき知識を中心に－．広島大学大学院教育学研究科紀要，54，293-300.
- 嘉戸修（1991）保健体育教師に求められる資質，能力．新版保健体育教師への道－勉強法と採用試験ガイド－，大修館書店，2，27-32.
- 加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・嘉数健悟（2010）体育授業の悩み事に関する調査研究（その1）教職経験に伴う悩み事の差異を中心として．学校教育実践学研究，16，85-93.
- 加登本仁・松田泰定・木原成一郎（2011）体育授業の悩み事に関する調査研究（その2）悩み事の解決方法を中心として．学校教育実践学研究，17，169-174.



- 加登本仁・辻延浩・青木作衛・中川大介・八木純子（2012）体育授業に関する小学校教師の力量形成についての調査研究－教職歴年数による差異に着目して－. 滋賀大学教育学部紀要, 62, 73-85.
- 嘉数健悟・岩田昌太郎（2013）教員養成段階における体育授業観の変容に関する研究. 体育教育学研究, 29（1）, 35-47.
- 嘉数健悟・岩田昌太郎・木原成一郎・徳永隆治・林俊雄・大後戸一樹・久保研二・村井潤・加登本仁（2015）中学校保健体育教師の体育授業の力量形成に関する研究－教職歴の差異による悩みに着目して－. 沖縄大学人文学部紀要, 17, 39-48.
- 和秀俊・遠藤伸太郎・大石和男（2011）スポーツ選手の挫折とそこからの立ち直りの過程：男性中高生競技者の質的研究の観点から. 体育学研究, 56（1）, 89-103.
- 川喜田二郎（1967）発想法－創造性開発のために. 中央公論新社.
- 川喜田二郎（1970）続・発想法－KJ法の展開と応用. 中央公論新社.
- 木原成一郎・岩田昌太郎・松田泰定（2005）第二次世界大戦後の日本において保健体育教師に求められてきた専門的力量. 学校教育実践学研究, 11, 51-62.
- 木原成一郎（2011）専門職としての教師の成長過程と支援体制. 日本体育科教育学会編, 体育科教育学の現, 創文企画, pp. 193-207.
- 木原成一郎・久保研二・大後戸一樹・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・加登本仁・嘉数健悟（2014）小学校における体育授業の力量形成を促す現職研修に関する研究. 学校教育実践学研究, 20, 115-124.
- 木原成一郎・日野克博（2007）小学校教師に求められる体育の「実践的指導力」をどう養成するのか. 日本体育学研究, 23（2）, 15-41.
- 木原成一郎・久保研二（2015）小学校体育授業に関する教師の学習過程：研究授業後の協議会における談話分析を中心に. 体育学研究, 60（2）, 685-699.
- 北澤太野・鈴木理（2013）体育教師教育研究の課題と方法をめぐる議論. 体育科教育学研究, 29（2）, 25-34.
- 厚東芳樹・梅野圭史・林修・高村賢一・上原禎弘（2005）小学校体育授業に対する教師の反省的思考に関する研究. スポーツ教育学研究, 25（2）, 87-99.
- 久保研二・木原成一郎・大後戸一樹（2008）小学校体育科授業における「省察」の変容についての一考察. 体育学研究, 53（1）, 159-171.
- 久保研二・木原成一郎・村井潤・藤本翔子・大後戸一樹（2011）小学校体育授業における「若手教師」の思考の変化に関する研究. 広島大学大学院教育学研究科紀要, 60, 135-142.
- 松田恵示（2010）調査研究から見てきた教師の職能形成. 木原成一郎他編, 教師として育つ－体育授業の実践的指導力を育むには－, 明和出版, pp. 123-127.
- 森勇示・兒玉英華・服部友紀・青山裕美（2009）体育授業における技術的実践の問題性. 愛知教育大学研究報告, 58, 29-34.
- 村井潤・木原成一郎・松田泰定・岩田昌太郎・久保研二・徳永隆治・林俊雄・藤本翔子・加登本仁・林楠・大後戸一樹（2011）小学校教師が現職研修に求める機能に関する事例研究－体育科の校外研修の参加者に対するインタビューを手がかりに－. 広島大学大学院教育学研究科紀要, 60, 73-80.
- 村瀬浩二・生方謙（2010）中学生が体育授業において望む教師像について－運動・体育への態度による比較－. 大阪国際大学紀要 24,（1）, 65-77.
- 永里健（2014）体育を教える教員に必要な職能. 福岡教育大学修士論文.
- 中井隆司・澤田あかね（2007）小学校体育授業への取り組みに対する自己診断表作成の試み－反省的实践家として自己成長できる教師を目指して－. 教育実践総合センター研究紀要, 16, 31-40.
- 中井隆司（2010）体育教師としての成長と教師教育. 高橋健夫他編著, 新版体育科教育学入門, 大修館書店, pp. 244-250.
- 中井隆司・高橋健夫・岡沢祥訓（1996）体育教師のイメージに関する研究－特に, 大学生の中学・高校時代の体育教師に対する回顧的析を通して. スポーツ教育学研究, 16（2）, 125-135.
- 西原康行（2006）体育の意義の変遷と体育教師の力量の関係性. 現代社会文化研究, 37, 19-28.
- 野津一浩・後藤幸弘（2011）よい体育授業を行うための教師の力量の構造化試案－『教育素材を見抜く力』と『子どもを見抜く力』に着目して－. 教育実践学論集, 12, 249-262.
- 野津一浩・牧澤利光・新保淳（2016）体育科教員における授業構想の思考プロセスの可視化に関する研究－附属学校1年目のベテラン教師に着

- 目して－. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 25, 93-106.
- 坂本文子・中井隆司・Metzler, MW (2011) 良質な教員養成カリキュラム開発に向けての検討－ジョージア州立大学保健体育教員養成プログラムを事例に－. 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 20, 101-109.
- 佐藤豊・高橋健夫・岡出美則・森良一・友添秀則 (2013) 諸外国の動向を踏まえて－これからの体育科・保健体育科を展望する－. 鹿屋体育大学学術研究紀要, 47, 49-72.
- 新保淳・高根信吾 (2010) 体育教師・スポーツ指導者養成論序説 (1) 序論－「部活動における保護者からの支援獲得」のための歴史的変遷モデルを事例として－. 静岡大学教育学部研究報告, 41, 237-250.
- 品田龍吉 (2008) 体育経営者としての保健体育教師を育てる. 体育・スポーツ経営学研究, 22, 9-17.
- 園山和夫 (1999) 新時代の体育教員の養成と免許取得. 杉山重利・園山和夫編著, 体育科教育法, 大修館書店, pp. 169-171.
- 須甲理生・助友裕子 (2017) 保健体育科教職志望学生における保健体育教師イメージの変容－模擬授業とその省察を中核に展開した強化教育法の前後に着目して－. 日本女子体育大学紀要, 47, 49-63.
- 住本純・岡出美則 (2015) 現職職員が大学での体育に関する長期研修に参加する動機と契機. スポーツ教育学研究, 35 (1), 15-27.
- 鈴木直樹・齋藤裕一・田島香織 (2012) 体育教師に求められる力量に関する検討－米国と豪州の教師のスタンダードを手がかりとして－. 東京学芸大学紀要, 64, 137-144.
- 鈴木聡 (2010) 小学校教師の成長における体育科授業研究の機能に関する研究－体育科授業研究会に参加する小学校教師意識調査を手がかりとして－. 体育科教育学研究, 26 (2), 1-16.
- 高橋健夫・岡沢祥訓・中井隆二 (1989) 教師の「相互作用」行動が児童の学習行動及び授業成果に及ぼす影響について. 体育学研究, 34 (3), 191-200.
- 高橋健夫・長谷川悦示・日野克博・浦井孝夫 (1996) 体育授業観察チェックリスト作成の試み: 観察者の評価観点の構造を手がかりに. 体育学研究, 41 (3), 181-191.
- 高橋健夫・米村耕平・福ヶ迫善彦 (2004) 小学校体育授業における「授業の雰囲気」と形成的授業評価との関係についての検討. 体育学研究, 49 (3), 231-243.
- 武隈晃 (1992) 教師に求められる資質. 宇土正彦他編著, 体育科教育法講義, 大修館書店, pp. 189-193.
- 植屋清見 (2005) 本学保健体育科専修における「保健体育科教育法 I」の授業の行なわれかたとその授業評価. 教育実践学研究, 10, 11-20.
- 植屋清見・比留間浩介・渡辺保志 (2008) 中学校保健体育論－指導者たる教師に問われる資質や条件からの検討－. 教育実践学研究, 13, 84-101.
- 植屋清見・澤辺直人・小町昂史・比留間浩介 (2010) 教員免許更新講習会の実施効果に関する検討－保健体育科目の実施を通して－. 教育実践学研究, 15, 143-151.
- 梅野圭史・長田則子・厚東芳樹 (2010) 「出来事」研究からみえてきた教師の職能成長. 木原成一郎他編, 教師として育つ－体育授業の実践的指導力を育むには－, 明和出版, pp. 116-121.
- 渡邊彰 (2010) 保体教師の資質能力とは. 杉山重利他編著, めざそう! 保健体育教師, 朝日出版社, pp. 40-46.
- 山口孝治・梅野圭史・林修・上原禎弘 (2010) 小学校体育授業における教師の教授戦略に関する実践的研究. スポーツ教育学研究, 29 (2), 33-55.
- 山口孝治 (2010) 体育授業研究からみた教師の実践的知識と思考に関する研究の変遷と今後の展望. 佛教大学教育学部学会紀要, 9, 61-72.
- 山口孝治 (2011) 体育授業における教師の力量形成に関する実践研究－若年教師の実践的知識の変容に着目して－. 佛教大学教育学部論集, 22, 153-170.
- 山口孝治・長田則子・上原禎弘・梅野圭史 (2011) 小学校体育授業における教師の実践的知識への介入が教授活動に及ぼす効果－教師の教授戦略と授業の「出来事」への気づきとの関係を中心に－. 兵庫教育大学教育実践学論集, 13, 289-302.
- 四方田健二・須甲理生・萩原朋子・浜上洋平・宮崎明世・三木ひろみ・長谷川悦示・岡出美則 (2013) 小学校教師の体育授業に対するコミットメントを促す要因の質的研究. 体育学研究, 58 (1), 45-60.